



セブ島でも着物は空気やその地域の色になじむ

日本人として日本の国に  
生まれた事に感謝

中谷比佐子

常夏の国フィリピンのセブ島に行つてきました。

貧富の差の激しいところではありますが、まだ資本の入っていない孤島もあり、人間が手を付けていない自然の美しさ、おおらかさにスッカリ自分を開放することもできました。

しかし一歩街に出ると、小さな子供が車の窓を叩いて、お水や飴などを売る姿をみてしまい、胸がつまります。

この国だけではなく、子供が物売りする国は他にもたくさんあります。文明国でもそういう子どもたちに出うことがあります。

振り返って日本で子供が物売りをしていた時代は戦争直後でした。親を亡くし、寄る辺のない身となった子供は、食べるために身を粉にして働くしかなかったのです。

チューインガムやチョコレートを米国軍人にもらつて売ったり、果物や野菜を農家の人に分けてもらつて売る

## 匠たちの手仕事 VOL.2

### 阿部信行 <東京友禅>

2月3日節分。恒例の東京都工芸染色協同組合「染芸展 第55回」審査会のため、浅草へ行ってきました。

広い会場には、番号札を貼られた百数十点もの手描友禅作品が、静かに陳列されています。奥では、秋櫻舎でお馴染みの熊崎和人先生、小倉貞祐先生たち大御所のお姿。ご自分たちも出展しながら、役員として、会のために忙しく動かれています。

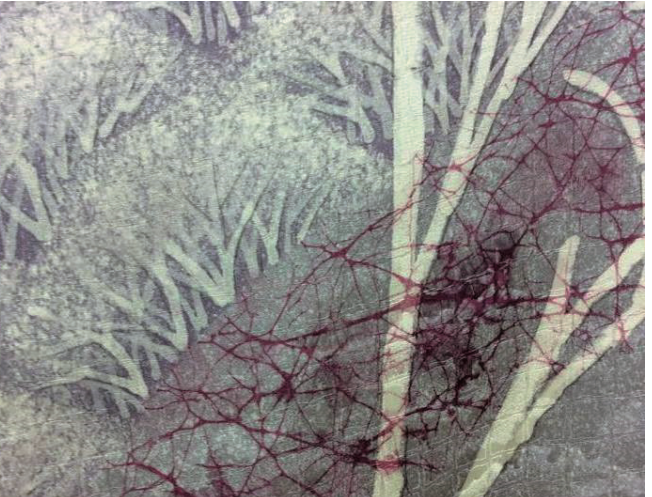
審査員は、東京都の各職員さんや、マスコミ関係、百貨店のバイヤーさんの数十名。皆さん、緊張の面持ちです。

熊崎先生による開会のご挨拶、審査開始の合図とともに、皆プリントを手に作品を巡ります。お気に入り 5 点の番号を書き込み、さらに各自特別賞をえらんで、札を伏せ置きます。皆が作品の前を何度も行った来たりする間、チャコちゃん先生はあっという間にチェック終了!

ということで、2017年の「こすもす賞」は、阿部信行さんの『山の唄』に決定いたしました!

全体に生き生きと流れのある構図、奥行きのある風景は、全てがロウケツ技法だけで描かれたとは思えない繊細な表現。「吹雪、ひび割れ、叩き、線描きと、いくつものロウケツ技法を重ねて描かれています。

山形ご出身の阿部先生、元々は絵に興味があり、桑沢デザインへ入ってグラフィックデザインを学びます。ところが、たまたま覗いたところで縁がついたのは、友禅の世界でした。



赤いモヤのような美しいヒビワレは、よほどの経験、勘を操る腕があってこそバランス良く生まれる。



採点中へ。

その後、蠟の素朴な味わいに惹かれ、主にロウケツ染の創作活動を続けられます。調合を変えるなどして辿りついた現在の手法。

「いろんな色が入っているのに、透明感があってステキですね」と、チャコちゃん先生がお伝えすると、「私はもともと絵画に興味があったので、いまもそういった目線は変わりません。キャンバスに描くように、それでいて着物となって着た時の軽やかさを表現したいのです。物語、情緒を感じてもらえるように祈りながら、思いのままにはならないロウケツを重ねます。自由な厚さ、深みをつけられるようにしていけないと、私の気持ちがモノ足りなく感じてしまいますから。汚ない色にならないように、丁寧に作業を進めています」とのこと。

同時出品の帯「望郷」も、都知事賞を受賞されました。流石! 現在は、練馬区内の工房「染色工芸」でのお仕事と、後輩の育成に力を注いでおられます。

阿部信行  
1948年山形県銀山町生まれ。桑沢デザインを卒業後、染色工芸家・小山仁郎氏に師事。7年後に独立し、創作活動に入る。東京都工芸染色協同組合組合員。第一美術協会会員。

●作品の一部は、5月26～28日に熱海伊豆山の東急ハーヴェストクラブにて開かれる展示販売会にて、ご覧いただけます。(大阪の丸十呉服店さん主催)



阿部先生と。流れるようなラインの大胆な構図。



左から、北山社長(丸十呉服店)小倉貞右先生、熊澤吉治先生、江上昌幸先生、熊崎和樹先生、田中美咲さん(丸十呉服店)



# KOSMOS

## 秋櫻舎講座スケジュール

# schedule

### つれづれの会

#### ●テーマ 「糸を中心に素材を学び 直す～取材で得た話(養 蚕地の実話など)～」

●開催予定日  
(全て第4土曜日)

3/25 はスペシャルゲストに池本敬子  
さんをお招きします。教科書にはな  
い、神話こそ本当の歴史、として「阿  
波古事記」講座をお聞かせします。

池本敬子さん：「東京古事記研究会」  
副会長、「和美的集い」企画・実行  
委員長。

●今後の開催予定日  
6/24、7/22、9/23、10/28、  
11/25 (4・5・8月はお休み)

●参加費 5,000 円 (税込)  
★今年のつれづれ XmasParty は、  
12/2(土)に浅草の料亭を予定!  
お楽しみに。

### ナイトコスモス

#### ●テーマ 「着物と自然法則」

●講師  
チャコちゃん先生  
●開催予定日 (毎月第 1 金曜日)  
4/7、5/12、6/2……

●参加費  
1,000 円 (税込) / 要予約



### イベント・講演

出雲は、実は今の阿波だった!?

講演会

#### 『本当の古事記を知る』

私たちが通常知っている「古事記」  
は、天智天皇の時代に作られ、権力  
者の意向が強く主張されていて、疑  
問点の多いものですが、それでは本  
当の古事記は?

ということで、証拠など資料も豊富な  
三村先生の「本当の古事記」を皆さ  
んと一緒に紐解きたいと思います。

●開催予定日  
4月23日(日) 13:30～

●会場  
ニューシティホテル(西新宿・秋櫻舎そば)

●講師  
三村隆範：「阿波古事記研究会」  
副会長、「吾波新聞」発行責任者

●参加費  
3,000 円 (税込) (秋櫻舎へ要予約)

#### 「2017シルクフェア in おかや」 講演会

#### 『日本絹文化フォーラム2017』

世界遺産となった長野県富岡製糸工  
場同様、製糸工場が立ち並んだ岡谷  
市にあったシルク博物館。3年前、宮  
坂製糸さん(実働中!)を併設した見ご  
たえある場所にリニューアル。シルク  
フェアの一環で、チャコちゃん先生も  
お話をいたします。

●開催予定日  
4月28日(金) 13:00～17:00

翌29日は、博物館(無料開放)で、  
シルクフェアが開催されます。

●会場  
岡谷商工会議所(岡谷蚕糸博物館となり)

●講師  
中谷比佐子「自然法則に叶った着物の  
文化」、ほか5名

●参加費、テキスト代  
無料

●主催  
日本絹文化フォーラム実行委員会(岡  
谷市) <http://silkfact.jp/>

### 比佐子流 着物学問所

#### 『着せる科(初級)』4月生募集中です。

●開講予定 4/3(月)8回コース  
●受講料 ¥108,000 / 8回

#### 『着る科』個人レッスン@長野県安曇野市

毎月数日間、比佐子流の極意を安曇野市でも伝授しています。信州の皆様、  
ぜひお越しください。

●開校日 3月2、3、4、5日

●場所 安曇野市内

●受講料 30,000 円 / 4回。ほか、詳細お問い合わせください。  
[purple-moon.0525@ezweb.ne.jp](mailto:purple-moon.0525@ezweb.ne.jp) (関戸携帯)

子がいたことも確かです。

でもその頃は親の居る子供も  
食べるものがないほど貧乏な家庭  
は、たくさんありました。

そういう中で日本の大人は、子ど  
もたちが、ただ物を売るのはなく、  
自ら働いてお金を稼ぐことを教え  
ました。

靴磨き、新聞配達、お使い、掃除など  
の単純労働でしたが、体を動かし働  
いて、幾ばくかのお金をいただき、生  
活の糧にする。ということでした。

そういう子どもたちの中で才覚  
あるものは後に事業家として成功  
していくのですが、また見どころのあ  
る子どもは富裕の大人が、学資など  
の面倒を見て、その子の才能を伸ば  
し、学者や官吏として社会に役立つ  
人物に育て上げるということもあり  
ました。その為路上で子供が物売り  
をする姿は早く姿を消したもので  
す。

まだ私が雑誌の記者をやっていた  
頃、「旦那衆」と呼ばれる篤志家(と  
くしか)たちに育てられた戦災孤児  
が、東京大学を卒業し、アメリカで  
金融関係の仕事について大成功を  
し、故郷に戻り街の復興のために、教

育やその地の文化を残す貢献をし  
たと言うことで取材に行ったことが  
あります。

日本は子供をととても大切にす  
る国だったのです。

江戸の末期から明治にかけて  
日本に渡来した外国人は二様に

日本は清潔で

心優しい人々にあふれている

という感想文を書いて今その書物も  
文庫本になり、現代人がこういう国  
だったのだ、と感慨深げに読んでい  
るのですが、その中で、着物を着た  
女性の立ち居振る舞いの美しさに見  
とれた。紳士の着物姿を見て、その  
華やかさにうっとりした、などの文  
章に出会うと、昔と言ってもたった2  
00年もたたない国の絵姿が夢のよ  
うに思えてきます。

その中に、子どもたちが着物を着  
て楽しそうに元気に走り回っている。  
みんなニコニコして、初対面の自分  
にも笑いかけてくる、こんな国は神様  
が作ったに違いない。自分はこの国に

文明を教えようと意気込んできた  
けれど、逆にこの国の人たちから文  
化を教わった。

と書いている本もあります。

そうです

日本人は自分の国の文化に  
誇りを持つべきです

たった5日間この国を空けただけで  
したが、この国の清潔さ、整理整頓の  
できた空間、この美しさを改めて感  
じました。

ヨーロッパの文化のほうが素晴らし  
と思っただけは若い時でした。その後何  
回か訪れてみると、その素晴らしい  
文化のものが、中世の日本の文化が  
基礎になっていたこともわかってきま  
した。地球上のあらゆる文化を混ぜ  
てこねて全く新しい日本の文化を誕  
生させる基礎体力のある国が我が  
日本なのですね。

セブ島では、本来の日本の文化を  
学ぶために集まった外国人以外の日  
本女性の半数が着物を着て学ぶ姿



は落ち着きがあり、華やかで、周囲  
の人達の心の慰めにもなりました。  
もちろん私たちは行きも帰りも  
道中着物で過ごし、日本の人たち  
も着物の軽ろやかさを印象的につける  
ことができたと思自負しています。

着物はどんな場面にも臆せず出  
しゃばらず、日本人の誇りを守って  
くれます。